

絶滅危惧種とレッドデータブック

しまねレッドデータブックは島根県の絶滅危惧種をまとめたものだ。地球規模で野生生物の保全について評価する国際自然保護連合（IUCN）レッドリストに準じている。レッドデータブックは、最初は1冊の本として1997年に発行された。最新刊は2013年発行の植物リストと2014年発行の動物リストの2冊に分かれている。まとめると、レッドデータブック2013-14年版には、394種の植物と550種の動物が記載されている。

動植物が絶滅の危機に陥るには、乱獲、汚染、生息地の喪失、食べ物や縄張りの奪い合い、など多くの理由がある。ニホンアシカは商業捕獲が広く行われたせいで1950年代に絶滅した。コウノトリは、主に米産業で使用された農薬が原因で1971年頃日本では絶滅した。幸いにも、ロシアのコウノトリを飼育して繁殖させ、また野生へ戻す活動が近年行われている。現在はコウノトリが自ら繁殖しており、2018年に島根では4羽の野生のひなが無事に巣から飛び立った。

まだほかにも絶滅の危機にある動植物がいる。かつては島根全域の山域で目にすることができたヤマセミは、驚くべき割合で減少している。原因は不明だが、彼らが巣をつくる山の川岸が広くコンクリートで強化されるようになったことに関係があるかもしれない。田畑や村の周りの平地にかつて生息していたニホンイタチの場合、生息地がなくなってしまったことと、外来種のチョウセンイタチと縄張り争いをしていることが数の減少の原因の一部と考えられる。

絶滅に至る原因は常に複雑であり解明されていないが、レッドデータブックのような冊子を発行することでデータが確固たるものとなり、科学者たちがそのような種を観察して対処することができる。